

「花のある生活を日常に」

農高生に花授業、有線放送でPR



上伊那農業高校の「花プロ」授業

【長野】上伊那地域振興局は2024年度、「花高たいくすな」プロジェクト(通称「花プロ」)を開始した。花の生産が盛んな上伊那地域の認知度を高め、花の需要喚起や生産振興を通じて、花のある生活の日常化や関連産業を発展させることが目的。

花プロでは、①県伊那合同庁舎で、上伊那地域が出荷量日本一を誇るアルストロメリアやトルコギキョウをはじめ、地域で生産される「旬



「旬の花」で展示されたトルコギキョウ

②県伊那合同庁舎で、上伊那地域が出荷量日本一を誇るアルストロメリアやトルコギキョウをはじめ、地域で生産される「旬の花」を毎月展示③栽培技術に触れ、花き産業を知ることが目的に、上伊那農業高校と連携し「『花プロ』授業with上農」を5回開催④上伊那地域内で品種改良が行われているトルコギキョウ、リンドウの「花カード」9種類の制作・発行⑤花の情報発信のため有線放送や「花カフェ」講座の開催——に取り組んだ。

25年度は、女性や若者の地域外への流出を抑える人口減少対策としても位置付け、拡充して上伊那地域の花き産業の魅力発信に取り組む。

長野県上伊那地域振興局

体験発表で農の魅力発信

兵庫県で就農セミナー・相談会



熱気あふれる相談会場

希望者向けセミナー＆相談会「ひょうごで就農」を開催した。

会場の神戸国際会館セミナーハウスには、約90人の就農希望者が来場し、各市町や農業法人などの出展ブースを訪れて熱心に相談していた。

神戸市から来た40代の男性は「経営面

【兵庫】県とひょうご就農支援センター、JA兵庫中央会は6月29日、就農

・技術面などのアドバイスを受けることができ、参考になった」と話す。セミナーでは、赤穂市

産地化に向け環境整備



【新潟】阿賀野市では、有機米栽培で最大の障害とされる除草作業で乗用除草機「ウィードマン」の稼働が本格的に始まり、作業負担の軽減と収量の増加に期待が高まっている。

有機米を拡大するには、これまでの紙マルチ田植えでは限界とされて

ウィードマンでの作業。「作業効率がよく、除草効果も十分」との声があがる

有機米に乗用除草機登場

希望者向けセミナー＆相談会「ひょうごで就農」を開催した。

ドウ園を継承した宮末来さん(36)、たつの市で観光イチゴ農園を開業した塚本慶彦さん(38)が、自らの体験を披露し、安定した収入を得られる雇用就農のメリットや、独立就農の魅力などを語った。

発表者は「夢があるなら就農を諦めないで」など、参加者に熱いエールを送った。

和歌山県農林大学校「多様な農作物学びませんか」

オープンキャンパスを開催中

【和歌山】県は、高校生などを対象に県農林大学校農学部オープンキャンパスを開催している。農林大学校への進学を考慮する高校生らに講義や実習の内容、学校生活、卒業後の進路などを説明し、進学意欲を高めることが目的だ。



【愛知】岩倉市は6月8日、農業委員会の協力のもと、「稲作り農業体験」を行った。親子ら約60人が参加し、農業委員の指導を受けながら3組に分かれて田植えをし

「結婚新生活支援事業」で若い夫婦を応援

子育て世帯は中古住宅リフォーム支援

【京都】宮津市では、若い新婚世帯を対象に、家賃や引っ越し費用など新生活にかかる費用を補助する「結婚新生活支援事業」を実施している。

移住定住を促進するため、結婚を契機に宮津市内に移住する夫婦も対象とし、夫婦とも29歳以下の世帯では年60万円、夫婦とも39歳以下の世帯では年30万円を上限に、最大2年間補助する。

このほか、子育て世帯の移住定住を促進するために、宮津市内に移住するか宮津市内で転居する子育て世帯が中古住宅をリフォームする費用を最大100万円補助する「子育て世帯リフォーム支援事業」も実施している。

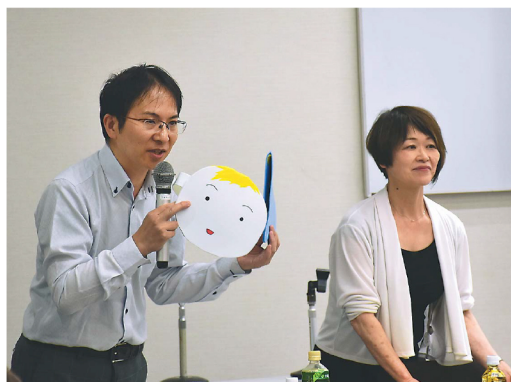
詳細は、宮津市ホームページ(<https://www.city.miyazu.kyoto.jp/site/ijuteiju/>)に掲載している。

(宮津市農業委員会)

京都 宮津市

「老後不安は農業者年金で解消」

石川県で加入推進特別研修会



研修会で講演する永武さん(右)と多田さん

【石川】金沢市で7月4日に開催された農業者年金加入推進特別研修会で、農業者年金は農業者

研修会では、京都府農業会議の多田和哉参事とともに、これまでの取り組み事例の紹介を交えながら、制度の魅力と加入推進活動の重要性を参加者に伝えた。

研修会に参加した七尾市農業委員の橋本良子さんは「今後のアプローチの参考になった。その人その人にあった加入の仕方を提案していきたい」と意欲を語った。

同研修会は、農業者年金基金、石川県農業会議、JA石川県中央会の3者共催で毎年開かれて

愛知 岩倉市・大府市 農業体験が好評

親子で田植えから収穫まで

【愛知】岩倉市は6月8日、農業委員会の協力のもと、「稲作り農業体験」を行った。親子ら約60人が参加し、農業委員の指導を受けながら3組に分かれて田植えをし

デモンストラーションが行われ、機械での作業の速さに驚いていた。秋には稲刈り体験を行い、自分たちで育てたお米を食べる予定だ。



夢中で田植えをする親子連れ(岩倉市)

タブレットで作業効率化

農地パトロールで成果



利用状況調査に向けタブレット研修を真剣に受ける委員ら

【岐阜】養老町農業委員会(問山博之会長)では、全委員にタブレットを貸与し、農地パトロールや委員の活動記録報告に活用している。

タブレットでは、eMAFF現地確認アプリで、遊休農地と判定した土地をタブレット上に強調して表示。委員はその情報をもとに現地確認を重点的に行う。新たに遊休農地を発見したときは、アプリで確認した地番を事務局に報告する。

岐阜・養老町農業委員会

タブレットではGPSが使えるため位置の特定が容易で、調査の精度が高まり作業時間の短縮にもつながっている。

中日本版

各地の話題